
YUTAKA
2009年3月期
決算説明会
2009年5月19日
株式会社ユタカ技研

Ⅰ．2009年3月期 決算概況

Ⅱ．2010年3月期 見通し

Ⅲ．その他 事業状況

YUTAKA

2009年3月期

決算概況

09年3月期決算概況 ＜連結＞

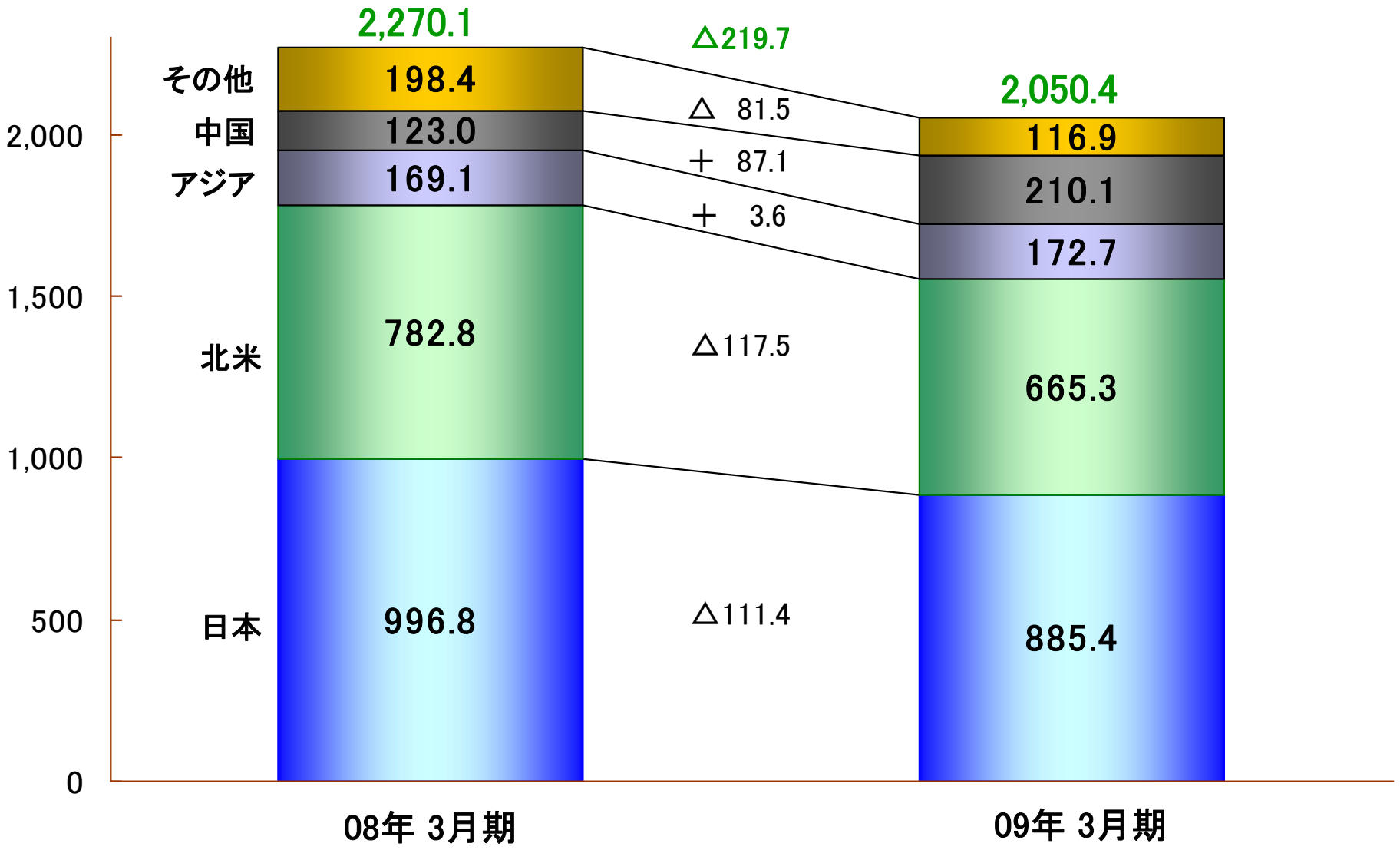
（単位：億円）

	08年 3月期	09年 3月期	前年同期比
売上高	2,270.1	2,050.4	△9.7%
営業利益	87.5	36.3	△58.5%
経常利益	85.7	27.9	△67.4%
当期純利益	45.4 ＊製品補償費用△5.8含む	0.4 ＊法人税等調整額△7.5含む	△99.0%
1株当り当期純利益	307.20円	3.09円	△99.0%
1株当り配当金	34.0円 ＊中間 17円，期末 17円	30.0円 ＊中間 19円，期末 11円	△4.0円
	($1=¥114)	($1=¥100)	

売上減に伴い、大幅減益

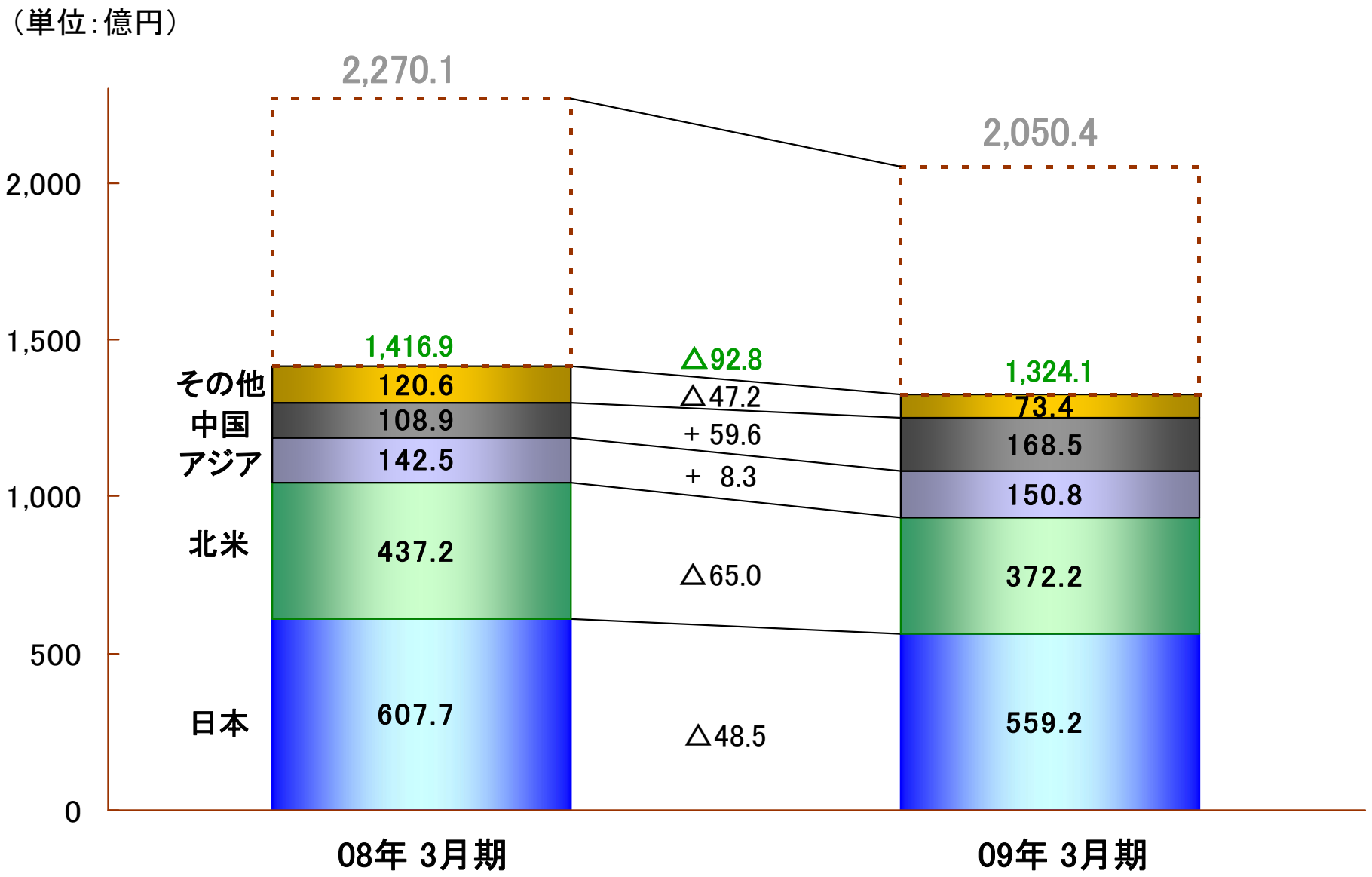
09年3月期決算概況 ＜連結＞　地域別売上高

（単位：億円）



日本・北米・その他で減収となり、全体も減収

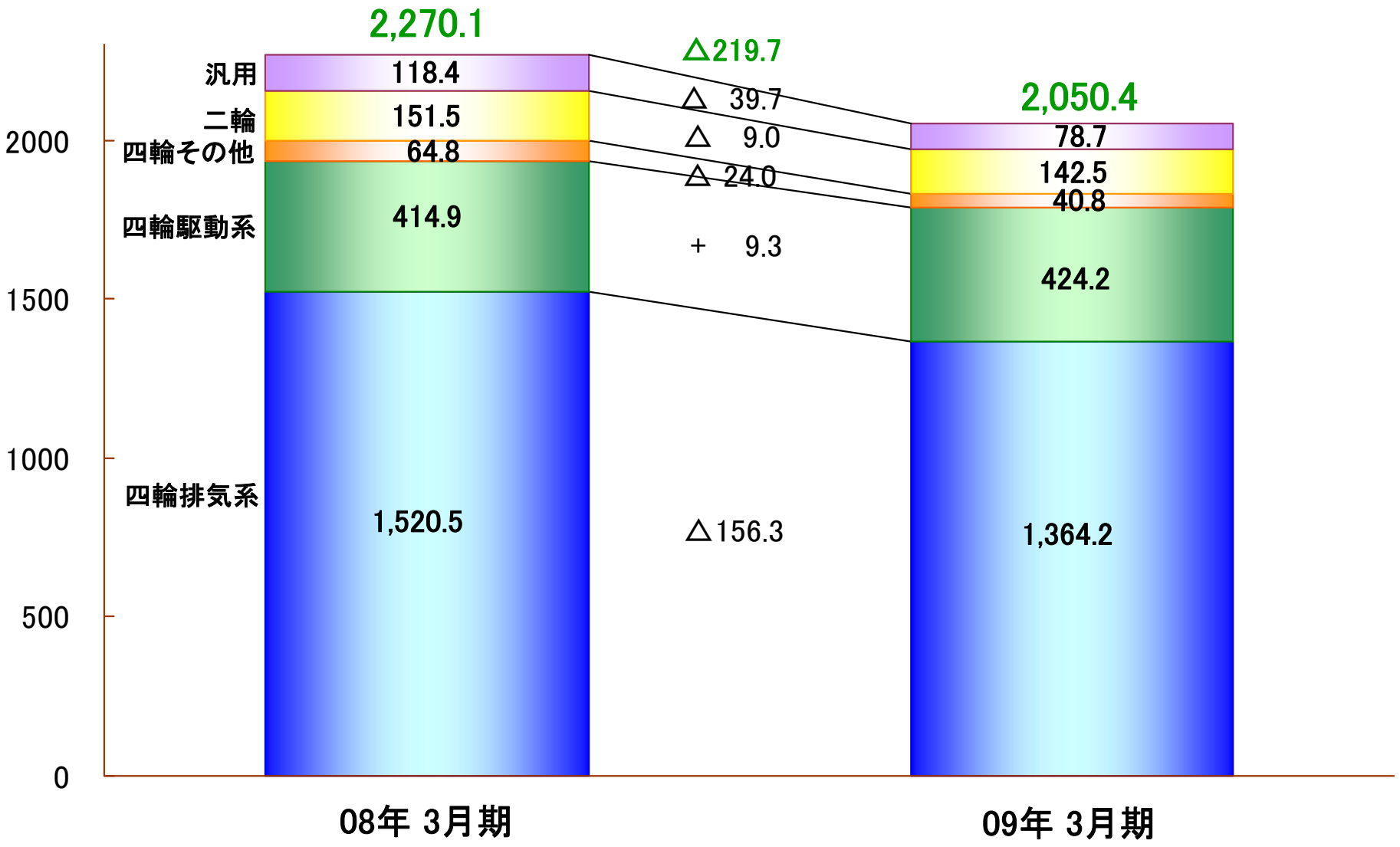
09年3月期決算概況 ＜連結＞　地域別売上高（キャタリスト抜き）



キャタリスト抜きでも日本・北米・その他で減収

09年3月期決算概況 ＜連結＞ 製品別売上高

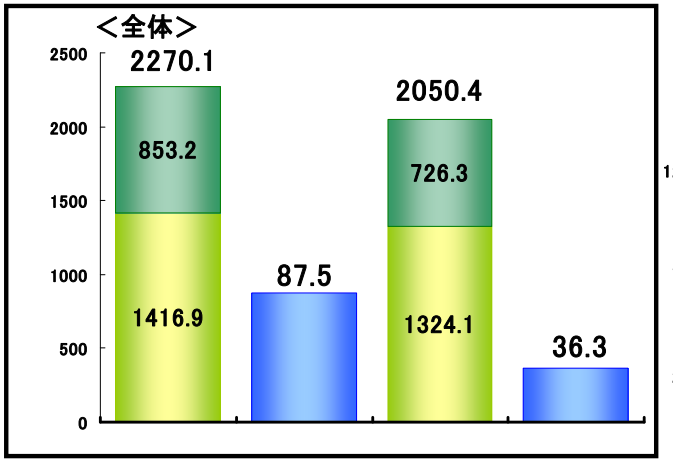
（単位：億円）

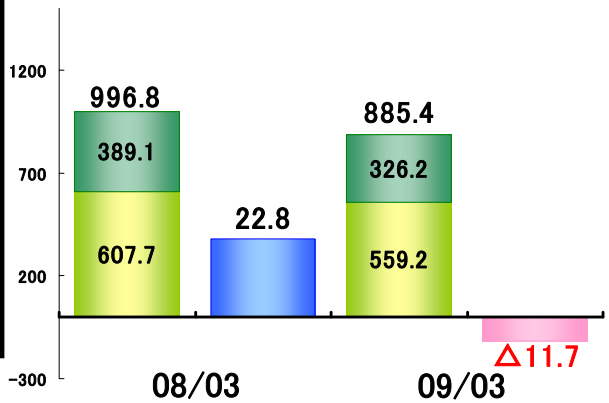


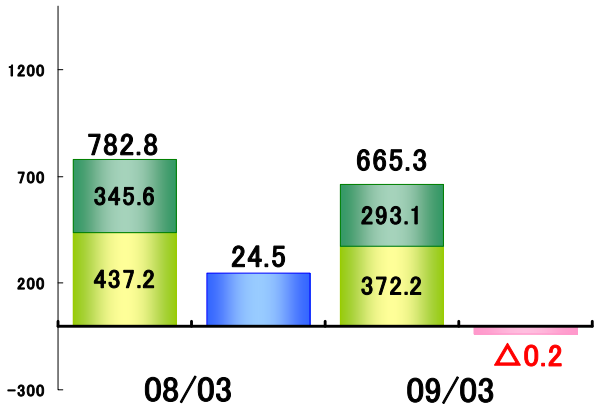
四輪駆動系は子会社化効果が寄与し増収

09年3月期決算概要＜連結＞地域別営業利益

（単位：億円）



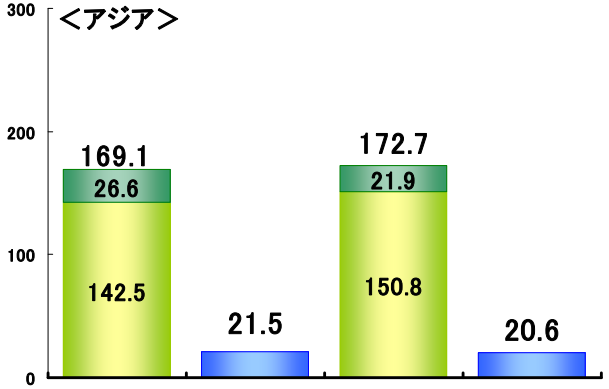


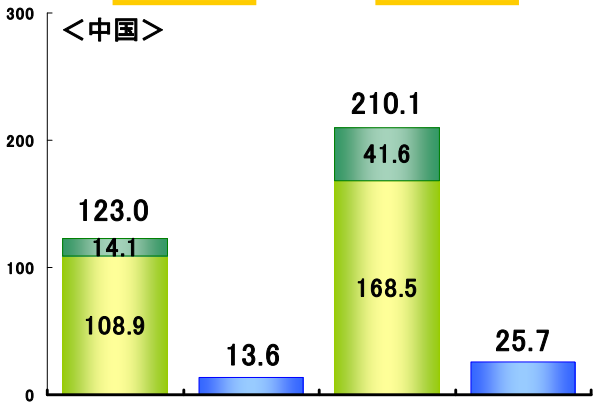


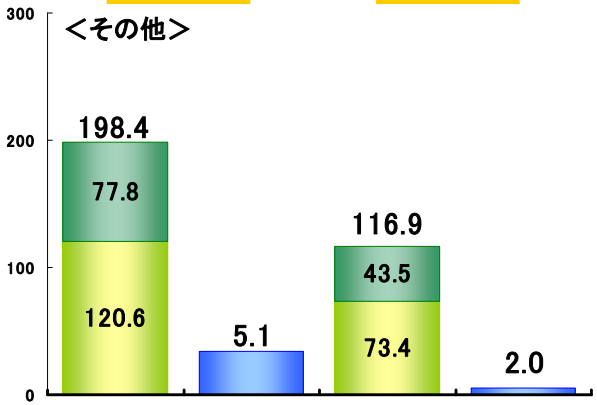
	08/03	09/03
営業利益率	3.9%	1.8%
キャタ抜き	6.2%	2.7%

	08/03	09/03
営業利益率	2.3%	△ 1.3%
キャタ抜き	3.8%	△ 2.1%

	08/03	09/03
営業利益率	3.1%	△ 0.03%
キャタ抜き	5.6%	△ 0.1%







	08/03	09/03
営業利益率	12.7%	11.9%
キャタ抜き	15.1%	13.7%

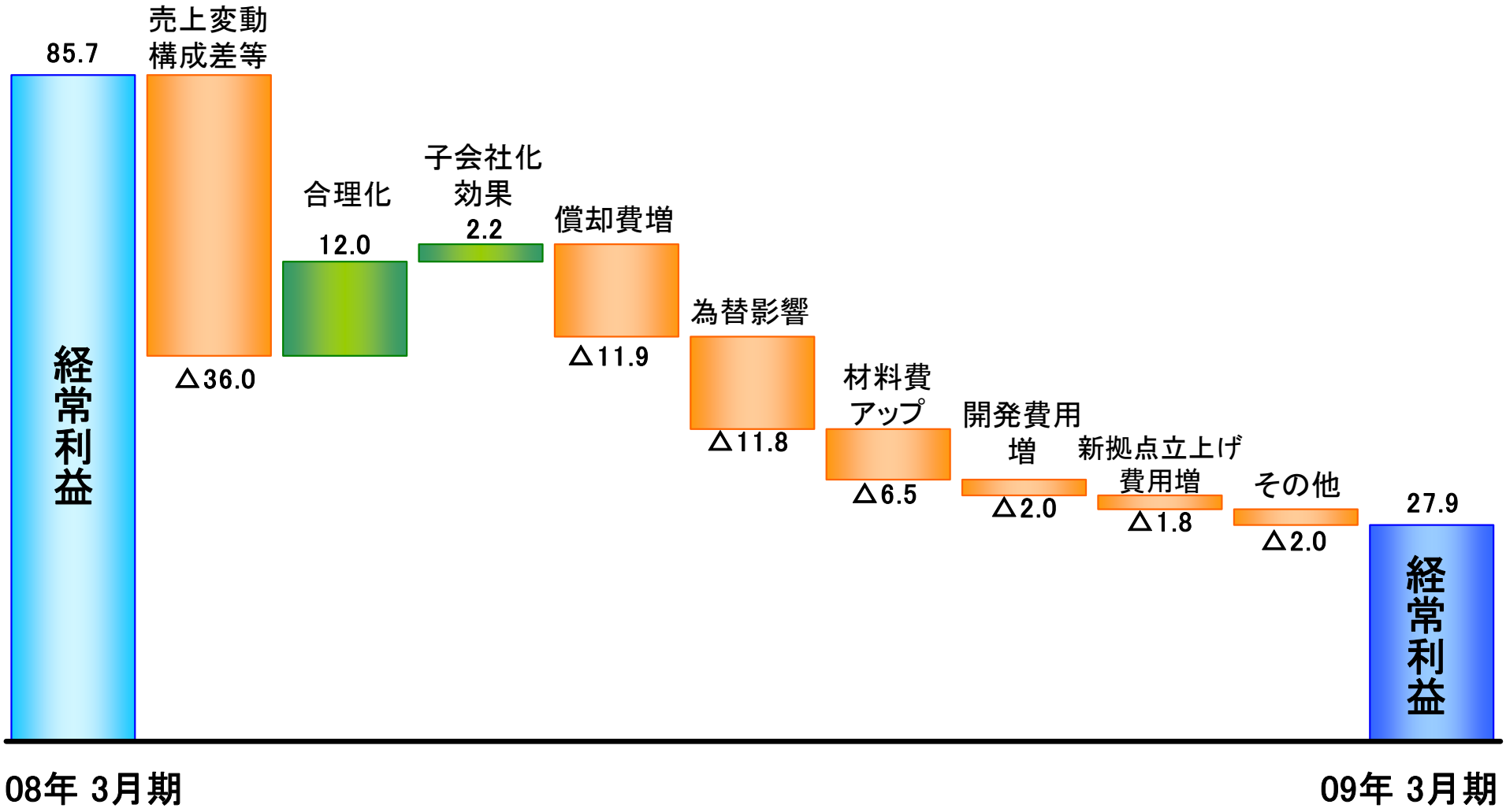
	08/03	09/03
営業利益率	11.1%	12.2%
キャタ抜き	12.5%	15.3%

	08/03	09/03
営業利益率	2.6%	1.7%
キャタ抜き	4.2%	2.7%

日本・北米で赤字,アジア・中国で黒字

09年3月期決算概況 ＜連結＞　経常利益 増減要因

（単位：億円）



売上変動・為替影響及び償却費増等で減益

YUTAKA

2010年3月期

見通し

10年3月期見通し ＜連結＞

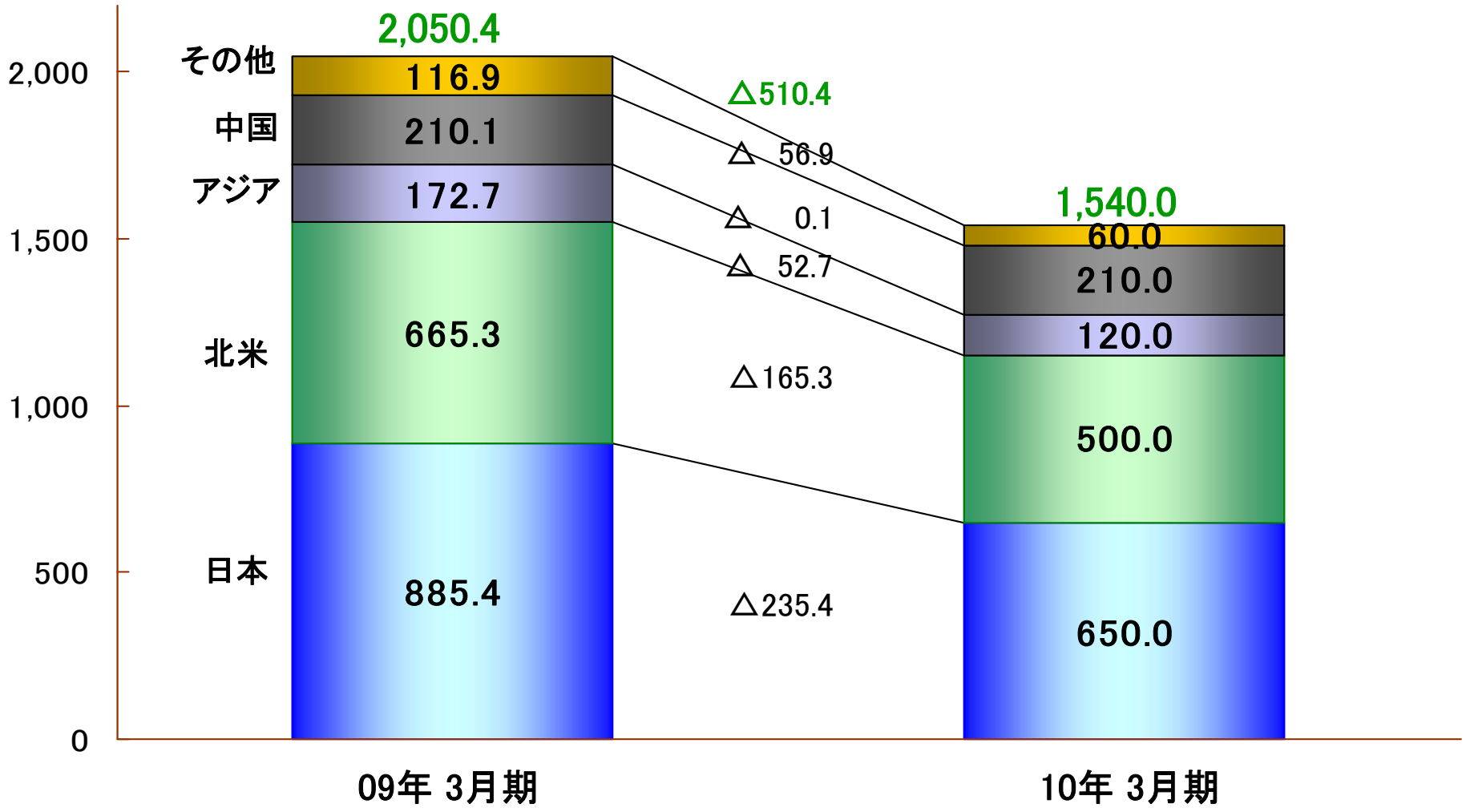
（単位：億円）

	09年 3月期	10年 3月期	前期比
売上高	2,050.4	1,540.0	△24.9%
営業利益	36.3	25.0	△31.2%
経常利益	27.9	21.0	△24.9%
当期純利益	0.4 ＊法人税等調整額△7.5含む	3.5 ＊法人税等調整額△2.0含む	664.9%
1株当り当期純利益	3.09円	23.61円	664.1%
1株当り配当金	30.0円 ＊中間 19円,期末 11円	22.0円 ＊中間 11円,期末 11円	△8.0円
	($1=¥100)	($1=¥95)	

大幅な減収となるものの引き続き黒字確保

10年3月期見通し ＜連結＞　地域別売上高

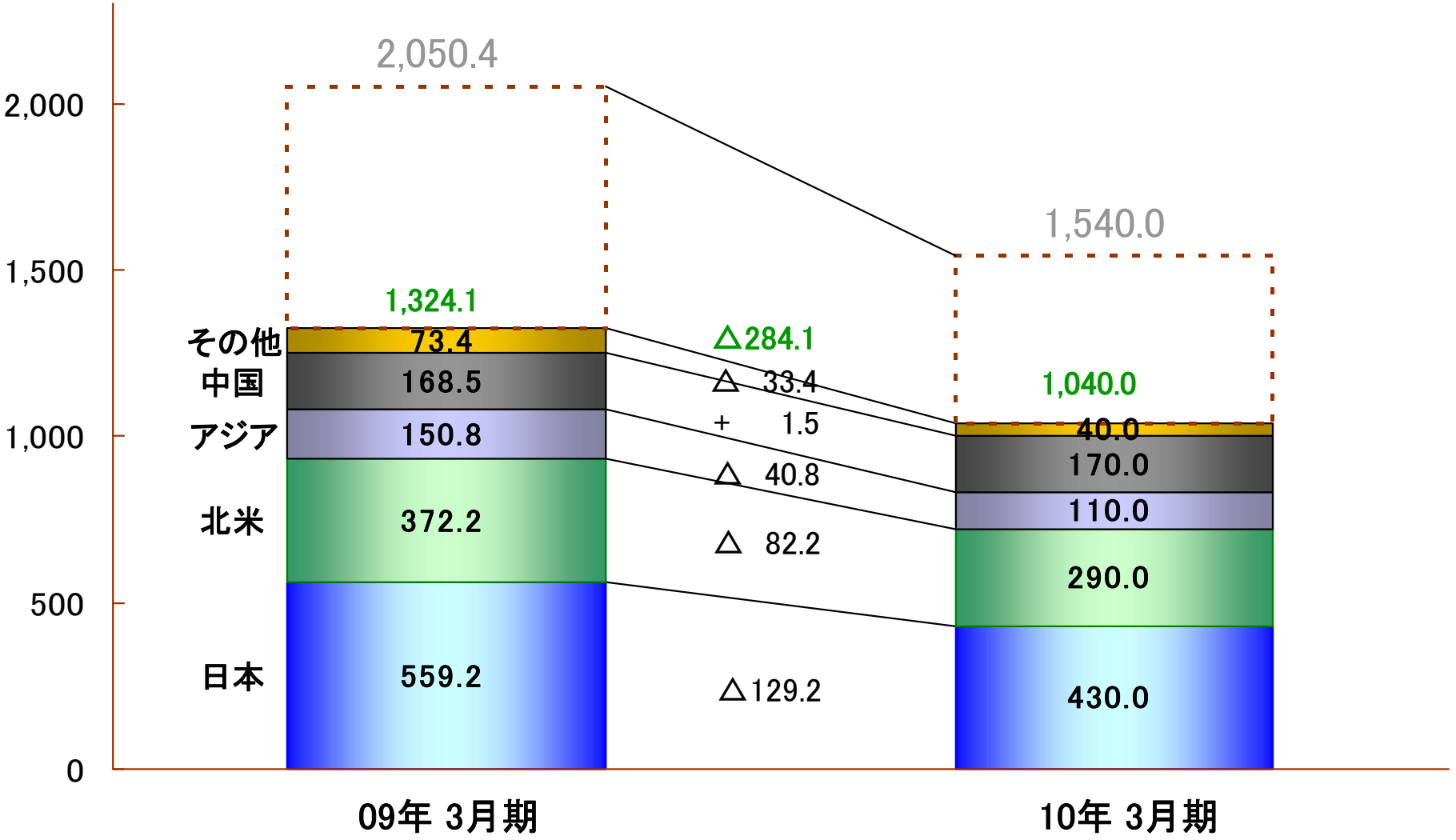
（単位：億円）



日米を中心に引続き減収

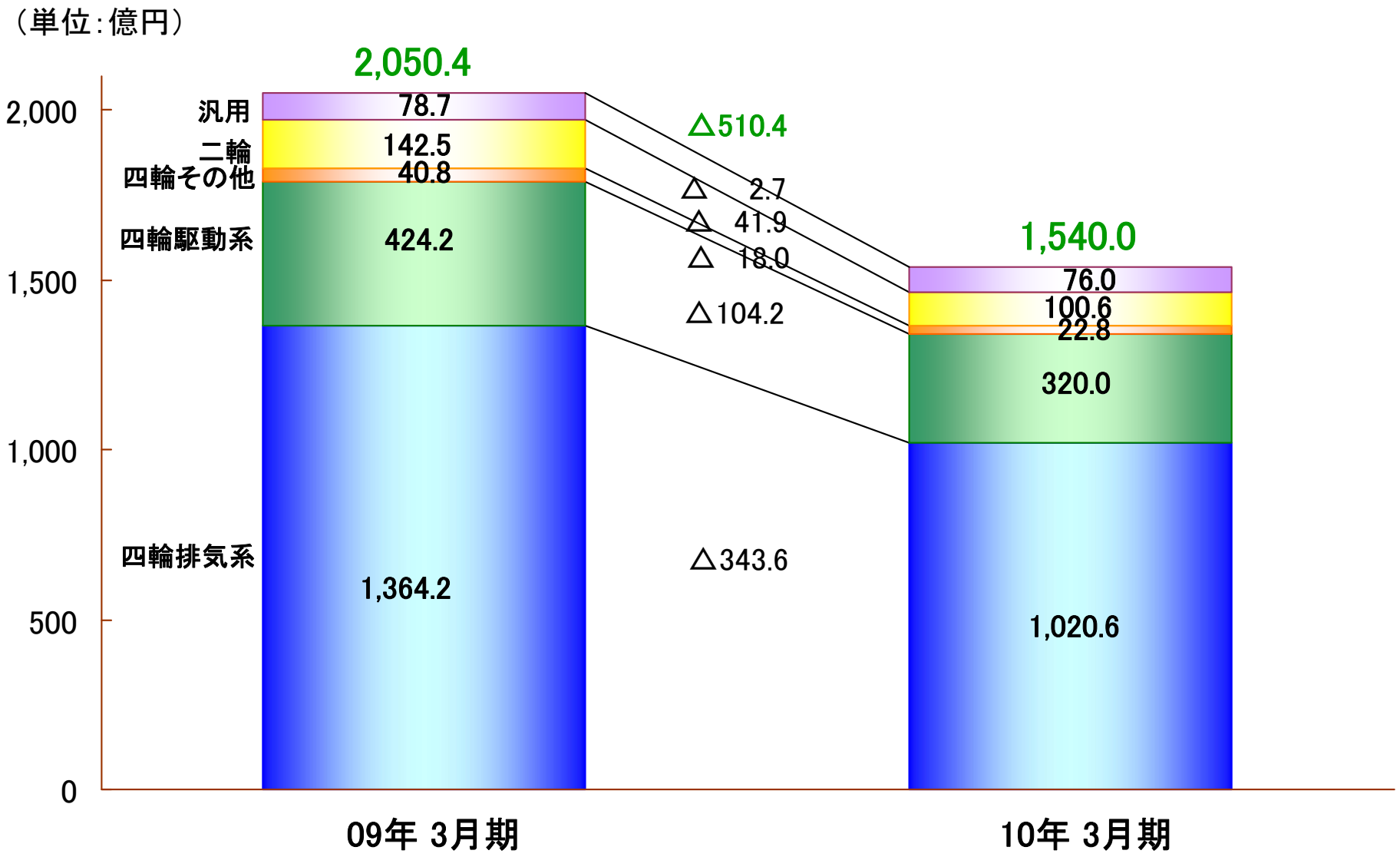
10年3月期見通し ＜連結＞　地域別売上高（キャタリスト抜き）

（単位：億円）



キャタリスト抜きでも同様に日米を中心に減収

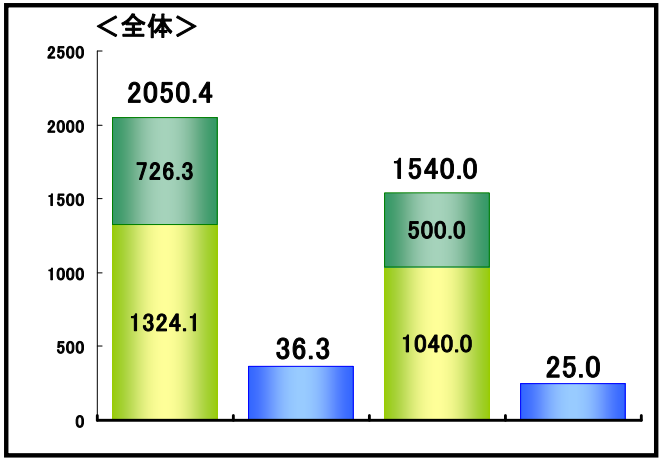
10年3月期見通し ＜連結＞ 製品別売上高

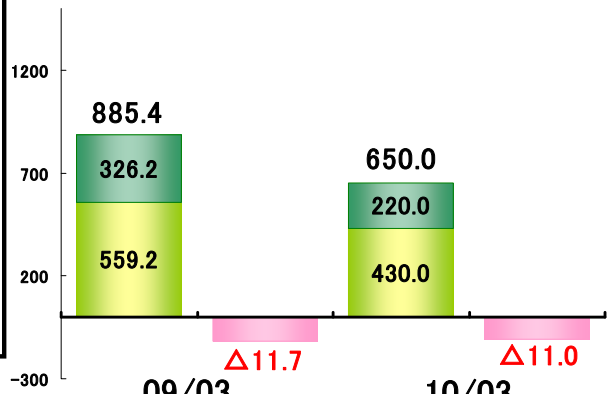


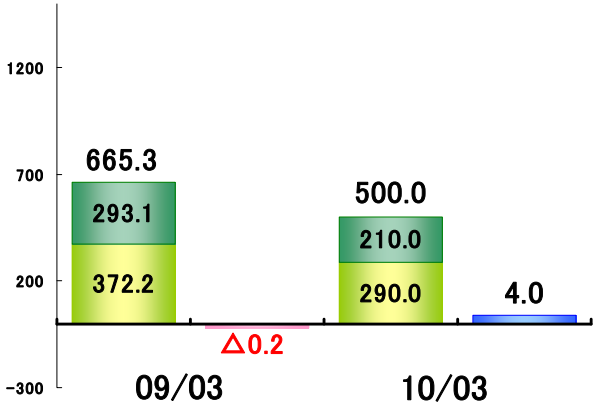
全製品群で減収

10年3月期見通し＜連結＞地域別営業利益

（単位：億円）



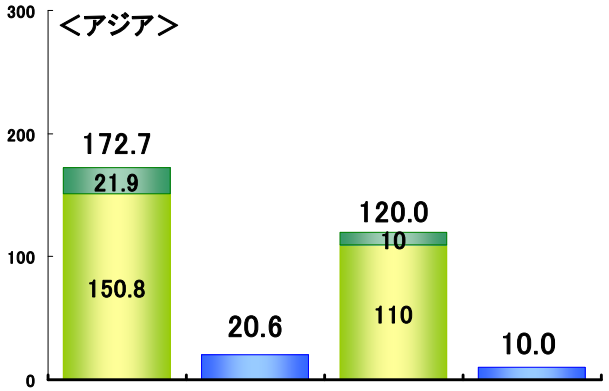


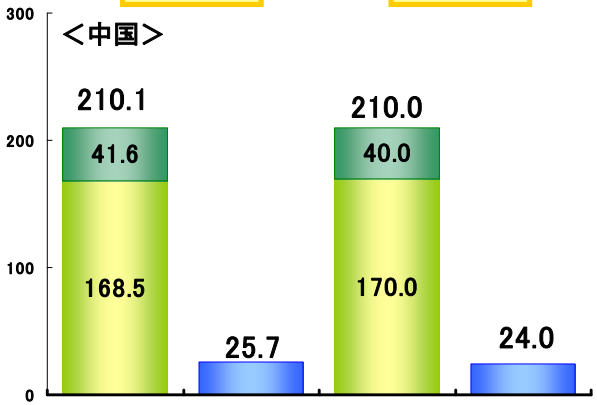


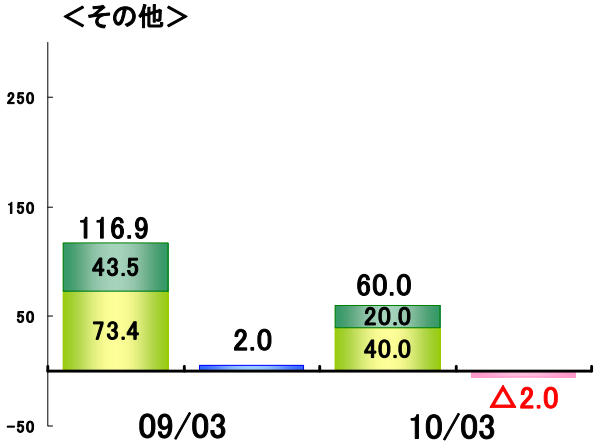
	09/03	10/03
営業利益率	1.8%	1.6%
キャタ抜き	2.7%	2.4%

	09/03	10/03
営業利益率	△ 1.3%	△ 1.7%
キャタ抜き	△ 2.1%	△ 2.6%

	09/03	10/03
営業利益率	△ 0.03%	0.8%
キャタ抜き	△ 0.1%	1.4%







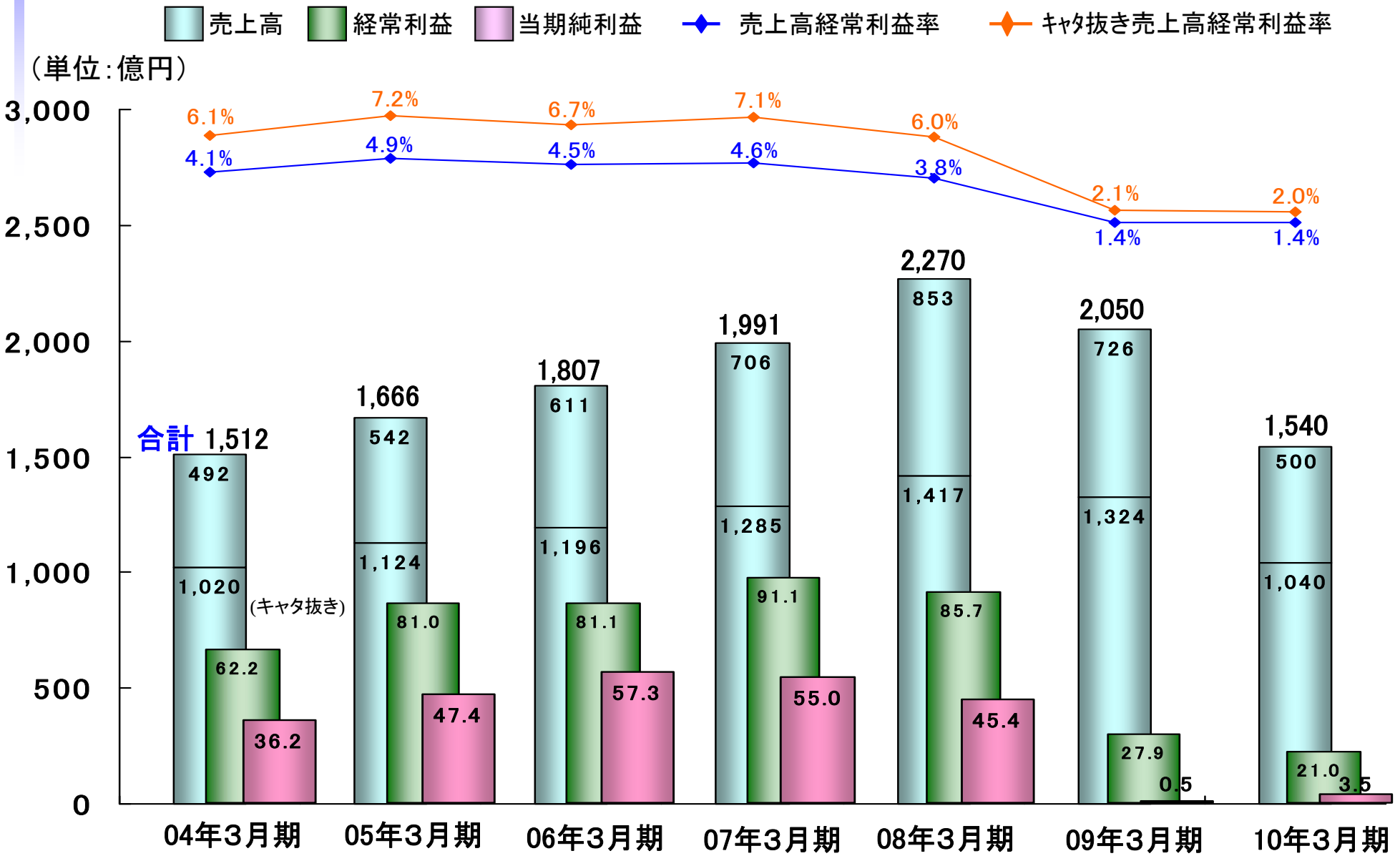
	09/03	10/03
営業利益率	11.9%	8.3%
キャタ抜き	13.7%	9.1%

	09/03	10/03
営業利益率	12.2%	11.4%
キャタ抜き	15.3%	14.1%

	09/03	10/03
営業利益率	1.7%	△ 3.3%
キャタ抜き	2.7%	△ 5.0%

日本・英国で赤字,それ以外では黒字見込み

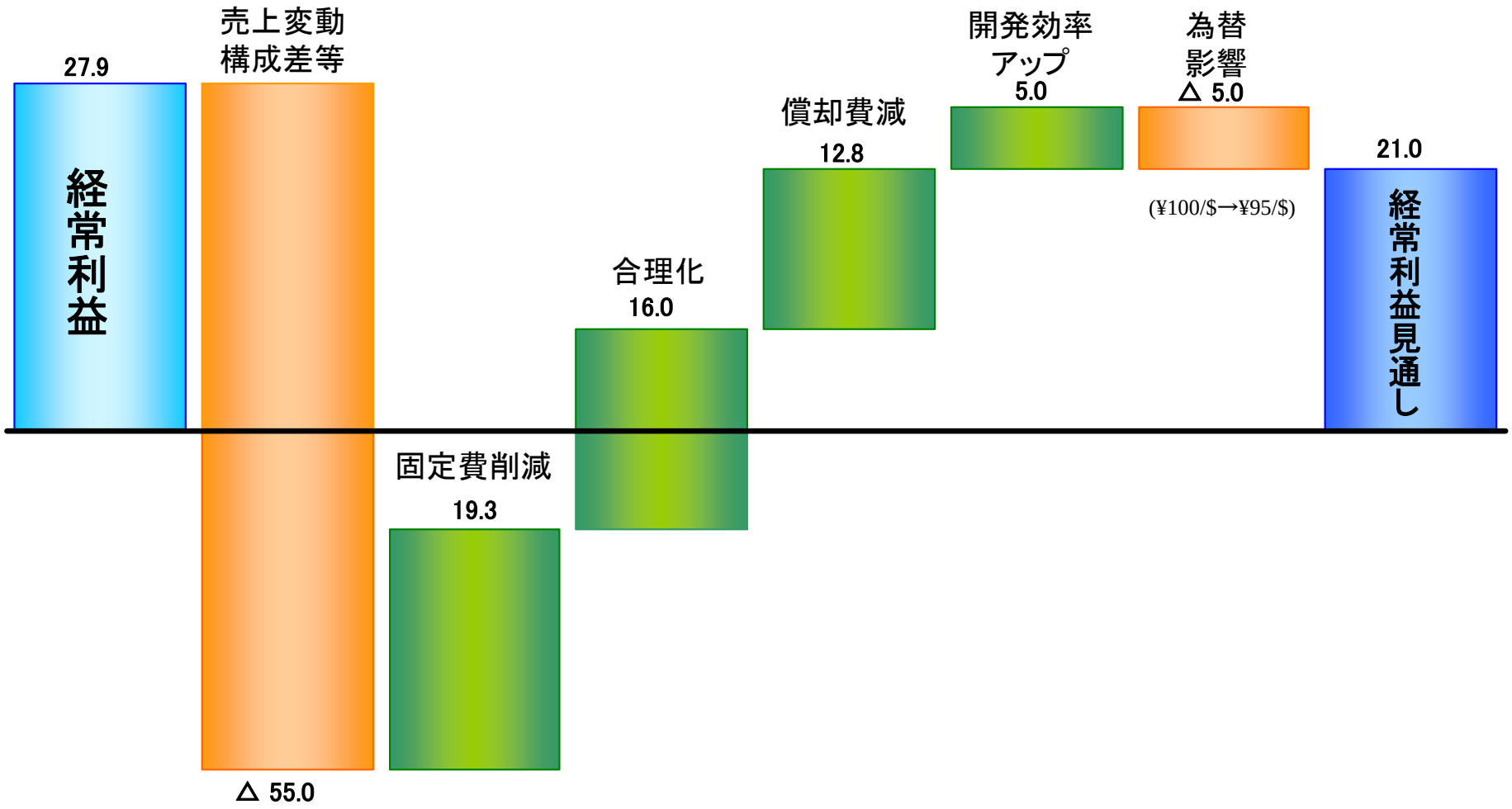
10年3月期見通し ＜連結＞ 売上及び利益の推移



大幅な減収の中でも利益は黒字確保の見通し

10年3月期見通し ＜連結＞　経常利益 増減要因

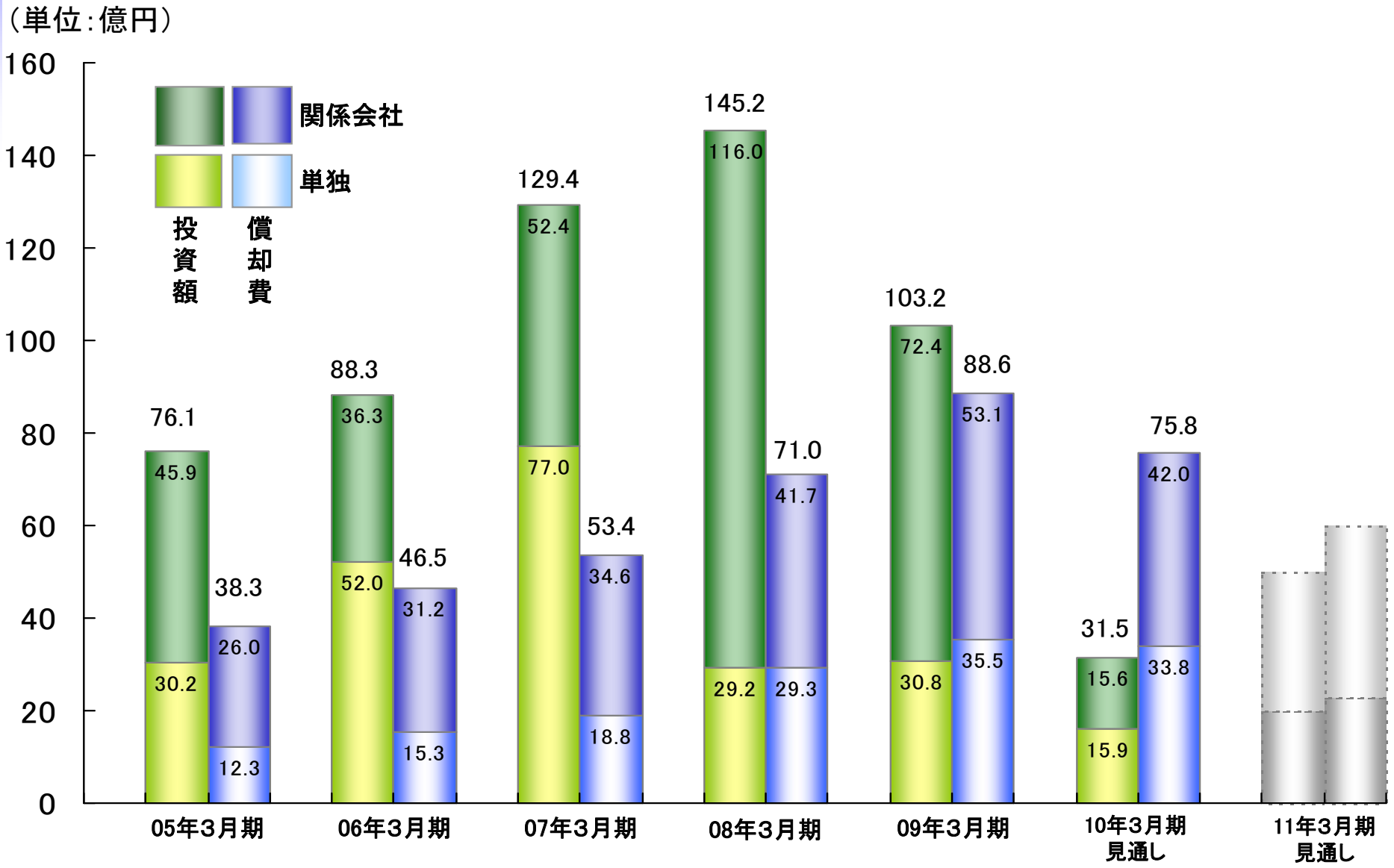
（単位：億円）



09年 3月期　　10年 3月期

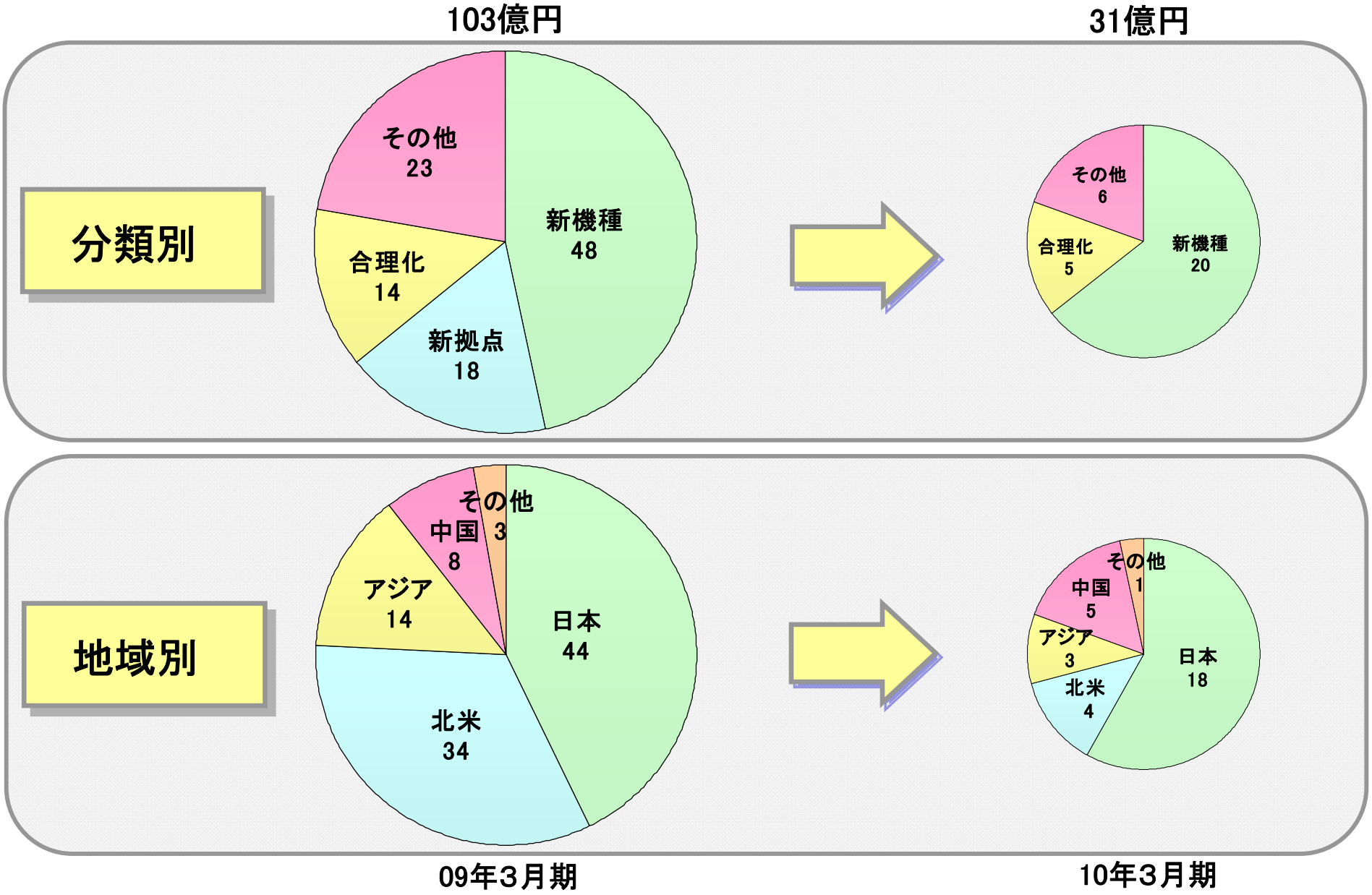
売上変動影響を費用削減、合理化等でカバーし切れず減益見込み

10年3月期見通し ＜連結＞　設備投資額の推移



投資,償却ともピークを過ぎ減少見通し

設備投資の内訳



新機種投資に集中して実施

その他 事業状況

YUTAKAの進むべき方向

永続的な成長に向けて

＜10次中期戦略＞

● 世界の各地域において、他社をリードする競争優位性を持つ
● 培ってきた基盤を最大限に活かし、世界各地でお客さまに貢献する



現況乗切りに向けて

＜フレキシブル体質づくり＞

・減産タフネス

＜ボトム体質づくり＞

・固定費ミニマム

― 施策の例 ―

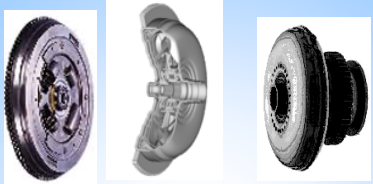
・汎用ライン化とラインの集約
・グローバル相互補完の加速

・要員のスリム化
・内作取入れの加速とフレキシブル配置

次世代製品開発

次世代製品の育成

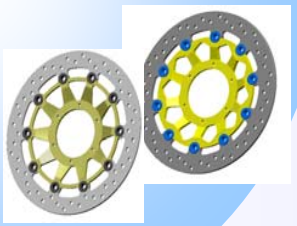
主幹3本柱部品



駆動系部品



排気系部品



制動系部品

ハイブリッド車部品



INSIGHT

デュアルマスフライホイール





排気一貫部品

次世代環境製品



家庭用小型
コージェネレーションユニット



FCXクラリティ

主幹製品事業の確実な成長

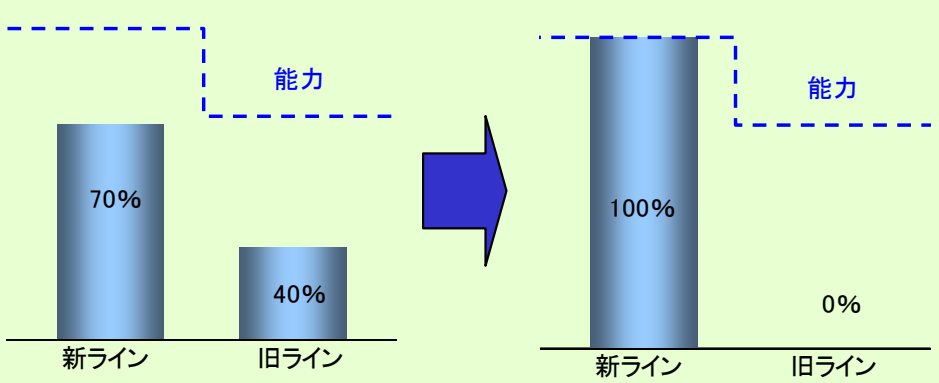
主幹部品の引続きの拡大と培った技術で次世代製品にチャレンジ

汎用ライン化とラインの集約

トルコン（豊製作所）

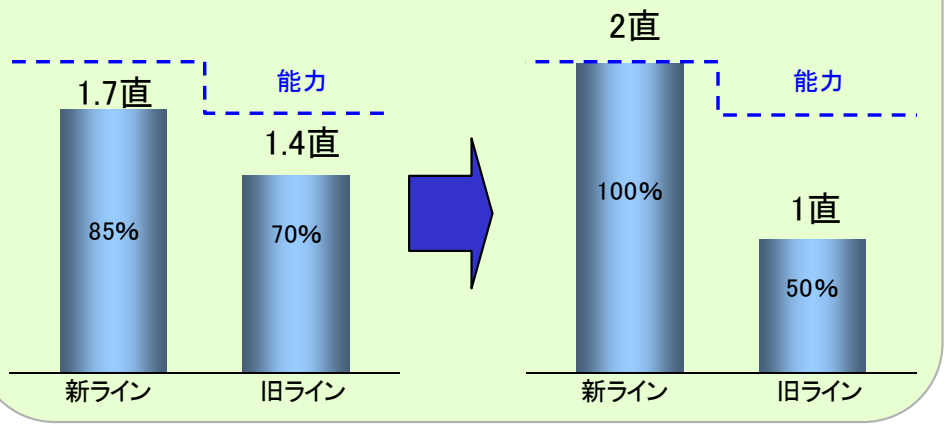
＜ロー付けラインの生産集約＞

生産能力の高いラインに生産を集約



＜タービン部品の生産集約＞

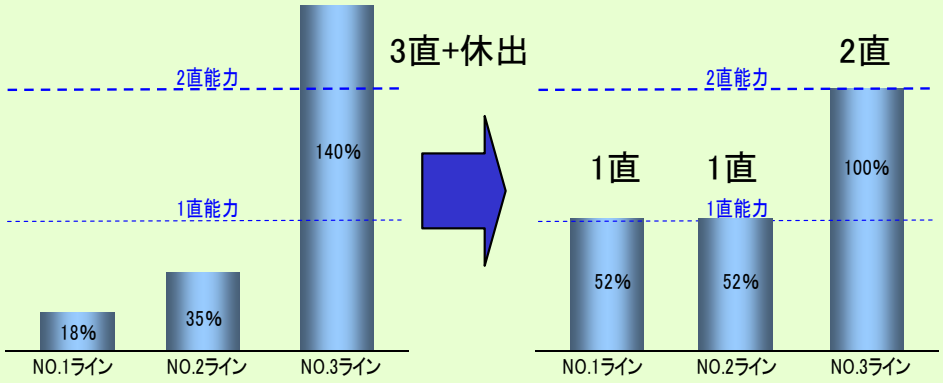
効率の高いラインに集約



排気（三重製作所）

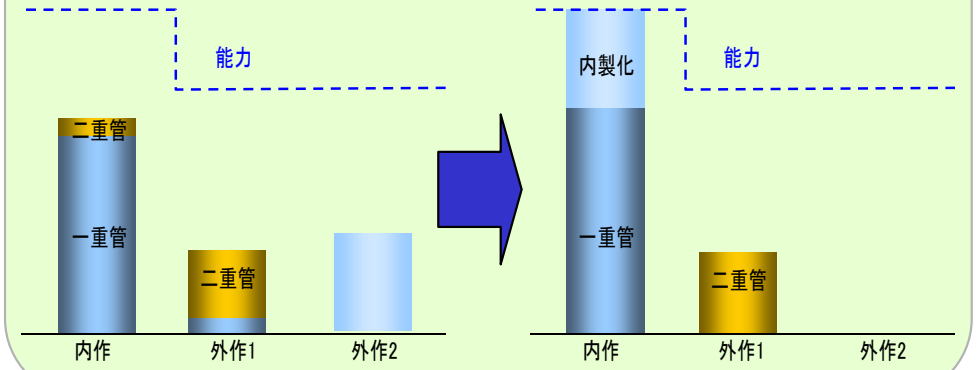
＜キャニング工程の生産平準化＞

生産能力をアップしラインを集約



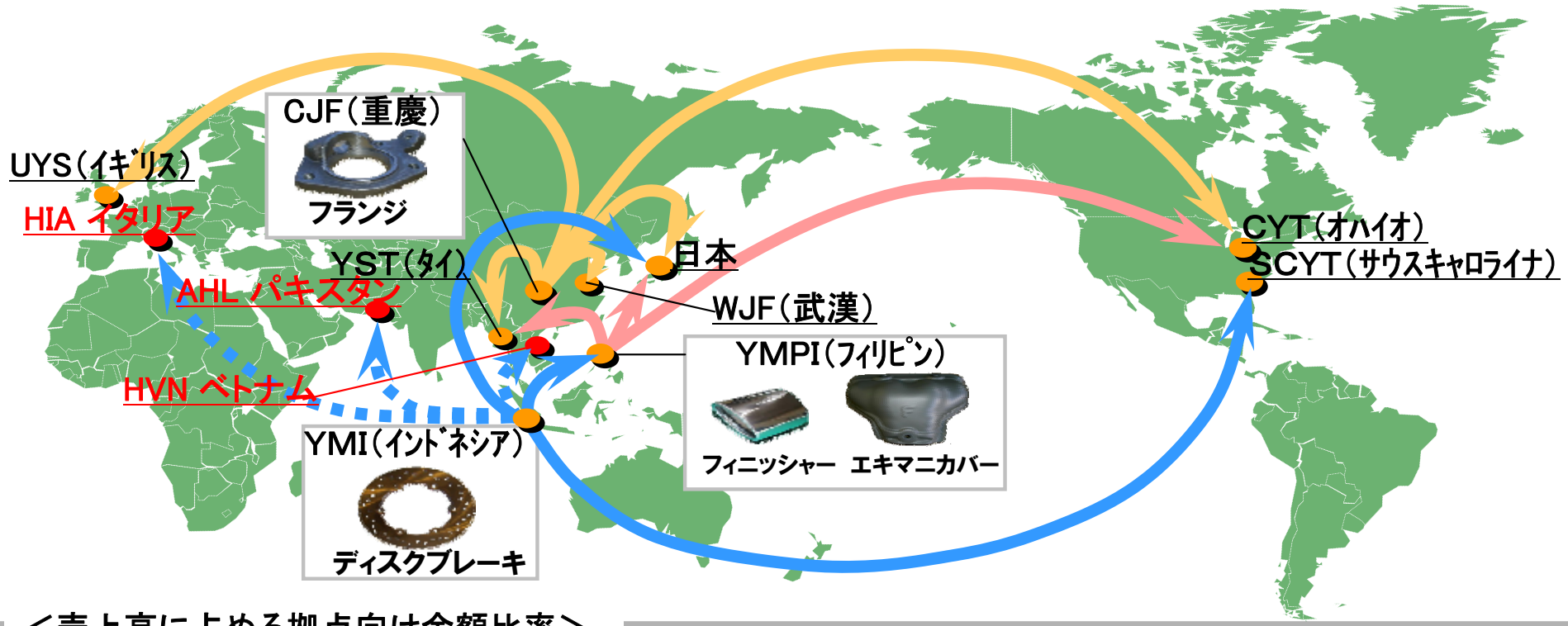
＜パイプ曲げライン集約＞

仕様に合わせて生産ラインの集約と内製化

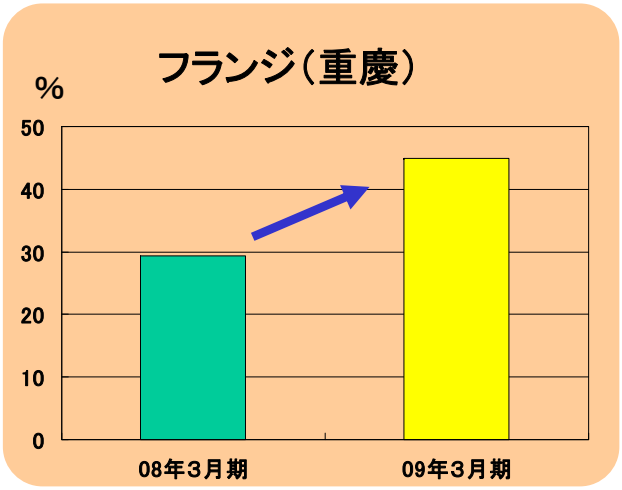


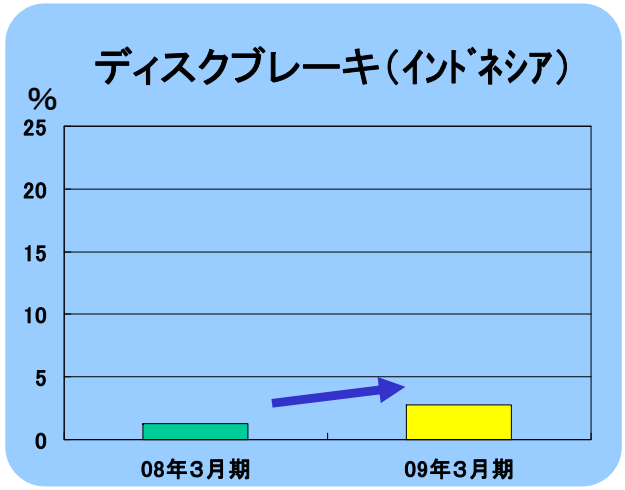
客先の需要変動に対し、ライン集約化で生産効率向上

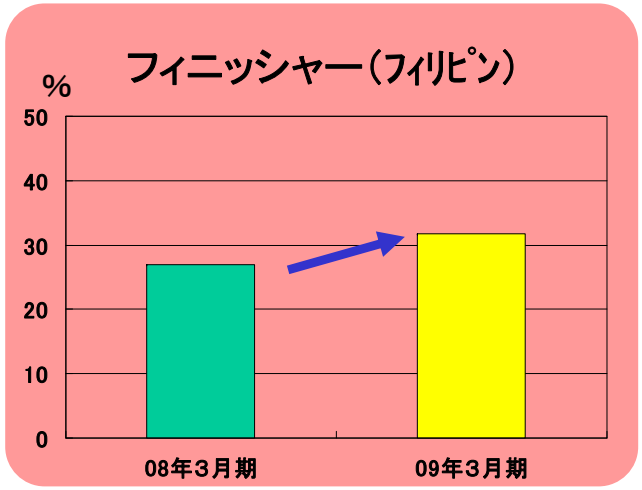
グローバル部品相互補完の加速



＜売上高に占める拠点向け金額比率＞

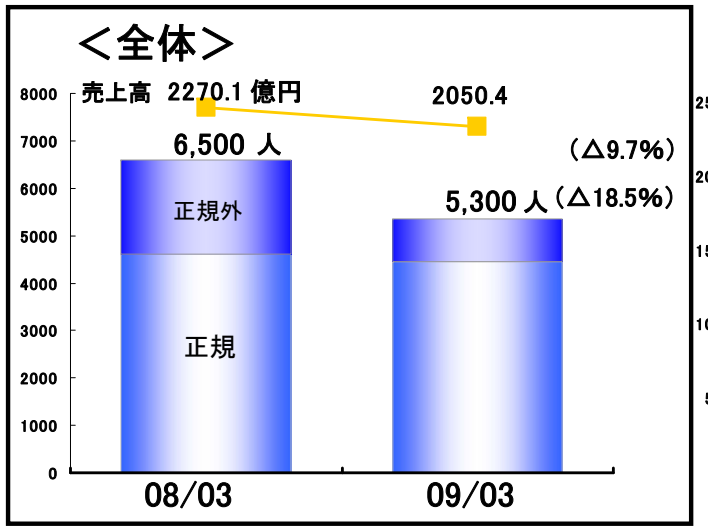


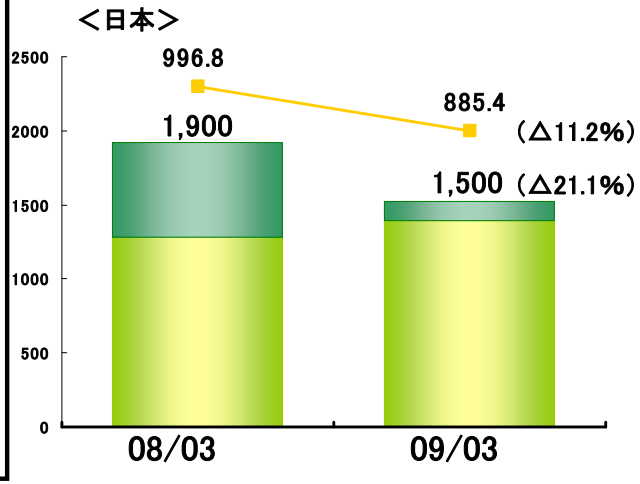


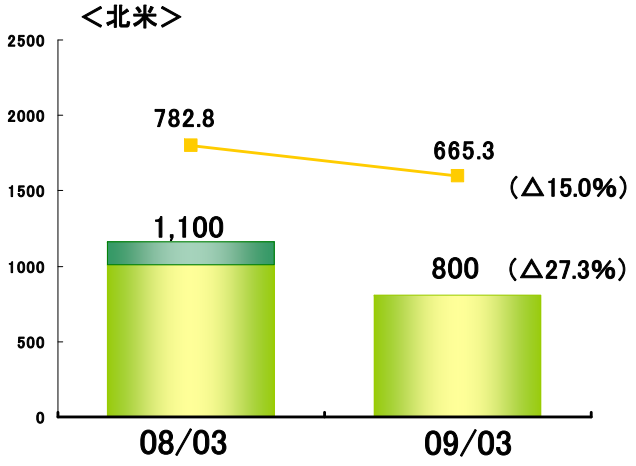


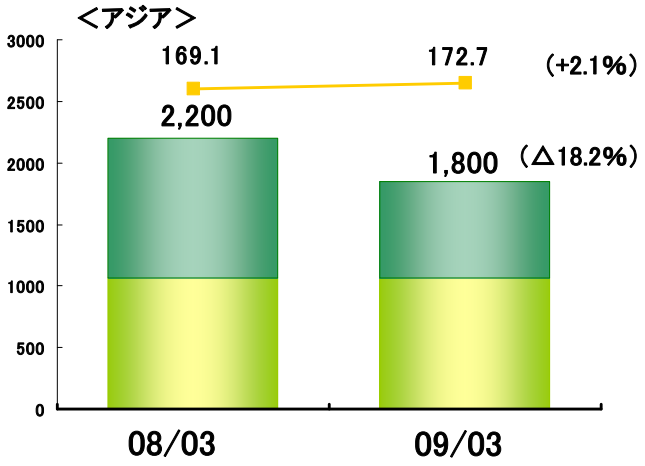
拠点の得意技でグローバル部品相互補完を加速

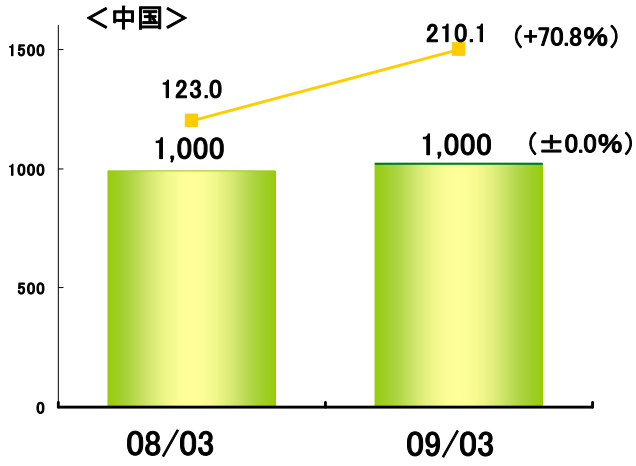
要員のスリム化

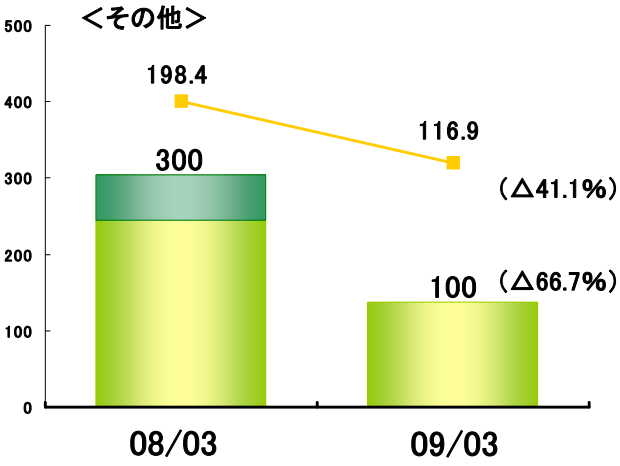










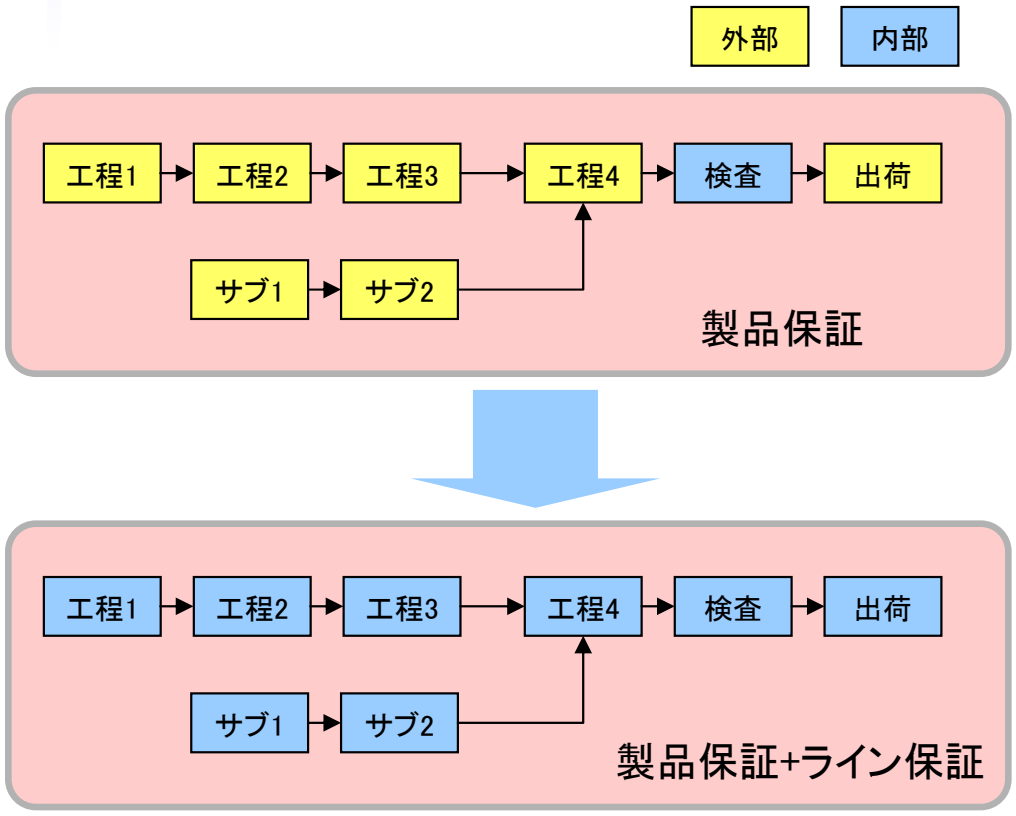


生産ボリューム変動に応じて要員もフレキシブルに対応

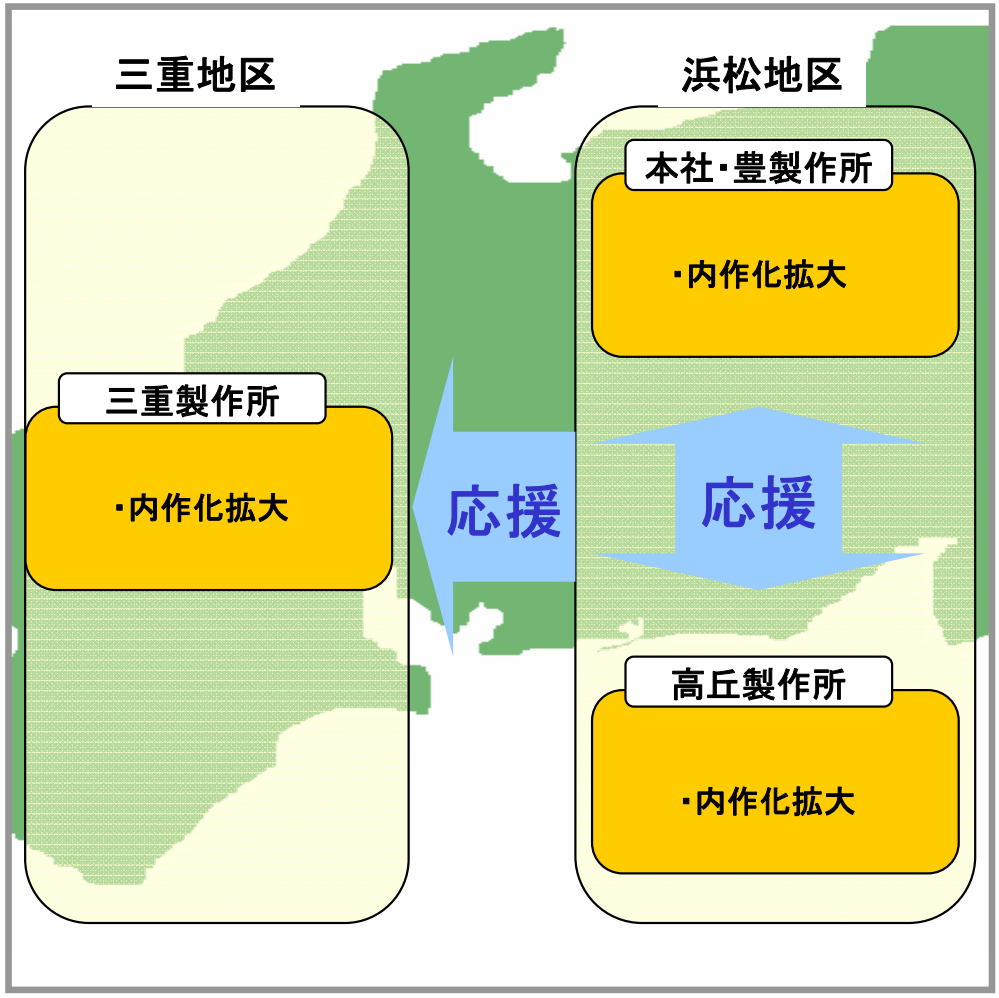
内作取入れの加速とフレキシブル配置

＜内作取入れの一例＞

M4エンジン組立ライン内製化



＜人の流動性＞



各製作所毎に内作化を加速し、全体バランスで要員を配置


YUTAKA
Clean for the Future